

## 5. 最終処分場

【所在地】ハノイ北部 NAM SON

【訪問日】2006年3月9日(木)午後

【面会者】RAI SIL (一般廃棄物処分の管理責任者)、TRIEU MANH TUONG (産業廃棄物処分の管理責任者)

### 5-1. 最終処分場の概要

- ①ハノイ市中心部から車で約2時間北上したところに位置しており、JICA 支援で建設された(1999年5月に開業)。田圃であった土地を掘削して建設。
- ②ハノイ市の一般廃棄物と産業廃棄物を処分しており、毎日2500トンの一般廃棄物を300台のトラックを使って運び込んでいる。
- ③従来、ハノイ市の廃棄物は南部にある2つの最終処分場で処理されていたが、1999年に本処分場がオープンしてからは旧処分場は閉鎖し、ここ1ヶ所だけで処分している。本処分場は1999年から先20年分の処理能力を有する。
- ④本処分場の敷地面積は33.3haで9つの区画に分けている。その内、一般廃棄物用は8区画(計28.1ha)、産業廃棄物用は1区画(5.2ha)。
- ⑤1期と2期に分けて埋め立てを行っている。1期目は22m高さ(-11m+11m)まで全体を埋め立て、その後第2期として+7m積み上げ、最終的には+29m積み上げる計画。最終的には植樹して再利用される。
- ⑥一般廃棄物の最終処分事業は現在第1期に当たり、6番目の区画を埋め立て中。HTBEシートで遮水し、ごみ2m+覆土15cmのサンドイッチ構造で、30トンのブルドーザで転圧しながら埋め立てる(管理型処分場)。それに対し、産業廃棄物用はコンクリート壁構造の遮断型。このような構造の最終処分場はベトナムでは当処分場のみ。
- ⑦LFG(Land Fill Gas)はガス抜き管で大気放出しており、利用はしていない。
- ⑧URENCO では将来ごみを選別し、焼却及びコンポスト処理する計画がある。本施設の敷地にコンポスト工場及び焼却施設の新設計画があるが、詳細未定。
- ⑨産業廃棄物処理管理区域はゲートで区切られており、一般廃棄物とは別の管理体制となっている。さほど広くない敷地内に下記のような処理設備がまるで実験設備のように揃えられている。
  - ・焼却炉：焼却能力150kg/h程度の小型炉。工業用廃ペイント・廃油類を処理。
  - ・廃水処理装置：廃酸(HNO<sub>3</sub>、H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>)、CuCl<sub>2</sub>等の処理
  - ・産業廃棄物最終処分場：コンクリート壁で囲った屋根付きの完全遮断型(1万5千 m<sup>3</sup>)。増設工事中。
  - ・テレビ等の解体処理建屋：人手による解体
  - ・持込混合産業廃棄物の選別処理建屋：人手による選別。液状物はおが屑で固める。
- ⑩産業廃棄物は排出者からの連絡でURENCOが収集し、費用を排出先から徴収。

### 5-2. Q&A

Q1. 浸出水処理施設は設置されているのか？

A1. 浸出水は集水池に集められ、追設の処理装置経由で周辺の河川に放流。(ただし、当

日は停電ということで装置は稼動していなかった。集水池は満杯で雨季に対応できるのか心配。)

Q2. 近隣住民の理解は得られているのか？

A2. ベトナムは社会主義国家であり、住民は政府の命令には比較的従順。また、ここでは従業員 120 人の内、80%を近隣から雇用して便宜を図っている。

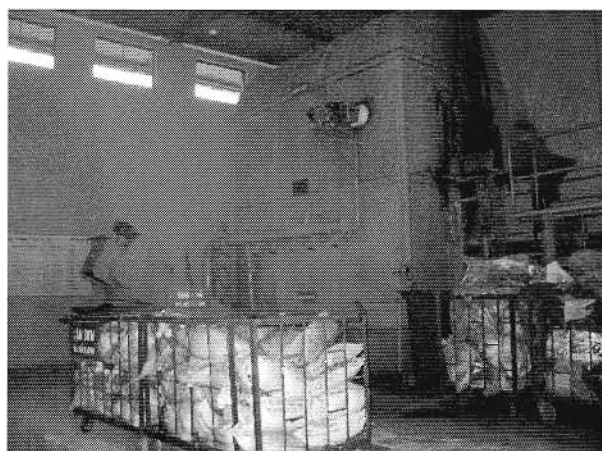
(担当：初田、中谷)



一般廃棄物最終処分場（管理型）



産業廃棄物最終処分場（遮断型）



産業廃棄物焼却炉



おが屑による液状産業廃棄物の処理